

安全と環境を考えるニシオの広報誌

1997 Vol-6

安全くん

30

「高所作業、慣れとなれ合い要注意」の巻



この『安全くん』は、インターネット上にホームページ
を開設しています。こちらの方も御覧ください。

<http://www.movenet.or.jp/anzenkun/>

それ行け!!

画 中村よしのぶ

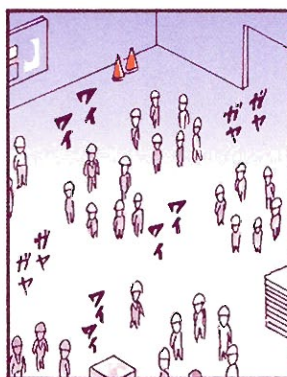
安全くん

連載 その30

「高所作業 慣れとなれ合い要注意」の巻

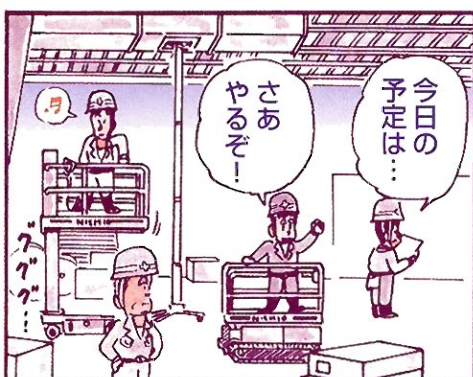
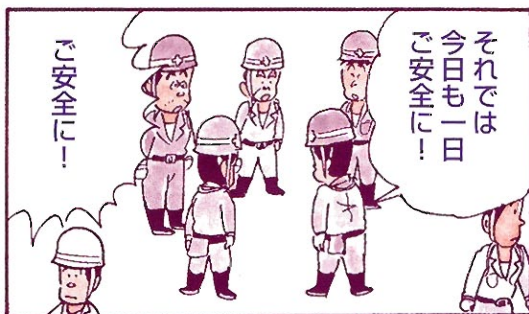


オレの失敗!



「KYミーティング」各チームが円陣を組んで打ち合わせをしている

「高所作業車編」……機械をよく知り、計画的な運用を。



作業開始



解説コーナー 屋内用高所作業車の事故例

～移動時に多い事故にご注意～

屋内用高所作業車での事故は ①作業中 ②移動時 ③用途外使用の3つに大別されますが、最近増加傾向にあるのは移動時の事故です。

<事故事例>

(1) クローラタイプ、スロープのさしかかりでバウンド

フラットな床面からスピードを落とさずに下りスロープに入ったため、勢いよく前傾してしまい、はずみで手摺にぶつかり被災。

(2) 走行中、垂れ壁やケーブルにひっかかる

前後をよく見ずに走行し、急に低くなっている壁や垂れ下がっていたケーブルなどに衝突して被災。

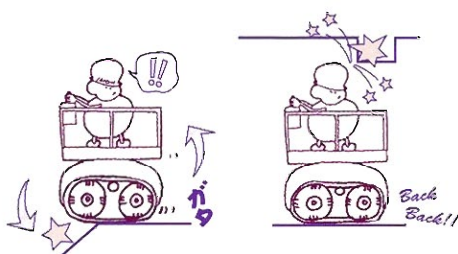
(3) スロープを直角に降りず、斜めに降り転倒

本来、傾斜面は直角に登り降りしなくてはならないところ、傾斜面を斜めに横切り転倒し被災。

(4) 下りスロープで、算木につまずき転倒

ホイールタイプで算木がある傾斜した足場材を降りる際、勢い余って車体がバウンドし、操作を誤り足場材から転倒、被災。

以上のように、高所作業車を作業場所へ移動する際や格納時に起こす事故が増えています。特に、格納時は作業が済み、気持ちの緩んでいることもあって注意を要します。なお、作業時は、少しの距離しか移動・走行をしません、位置決めの関係で上ばかり見ていて、回りにぶつかったり床面に置かれた資材などに乗り上げることも多いようです。





安全くん達が作業中
目元所長、他2名が
ぬぎうち的に巡回してくる



貸 RENT
します

NISHIOの屋内用高所作業車 現場に合わせてお選びください

■乗り込み簡単

NPC-40

- 車幅 820mm
- 総重量 680kg

NPH-40

- (ホイール式)
- 車幅 740mm
- 総重量 630kg

※作業床高共に
3.8m



■スリムな車幅で ロングなデッキ

NKC-40

- 車幅 820mm
- 総重量 900kg
- 作業床高 4.0m



■高さと積載荷重

NSC-62

- 6.2m/400kg
- 車幅 1300mm
- 総重量 1700kg

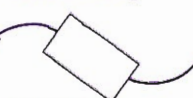
NSC-45

- 4.5m/250kg
- 車幅 1000mm
- 総重量 1000kg

※いずれも
スピラン可



■小回りとスリム スピラン可



NKC-60

- 車幅 850mm
- 総重量 1400kg
- 作業床高 6.0m

お選びの際は、必要な高さ、積載荷重、総重量、車幅、作業スペースなどをご確認下さい。



解説コーナー 「高所作業車の特性を良く理解し、正しい作業要領を指導しよう!」

現場で使用される掘削、切削、粉碎、または運搬用の機械は、オペレーターと呼ばれる、資格と高度な技術・知識をもっている者が運転・操作をします。一方、屋内用リフトと呼ばれる作業床高さ2～6mの高所作業車は、従来の脚立や足場に代わる補助装置として使われており、作業員が自ら操作します。つまり、“オペ”と異なり、高所作業車を動かすのが本来の仕事でないため、操作の習熟や、事故事例への関心が薄いのは確かです。最近では、職人さんたちも特別教育修了者が多くなってきました。そのため、現場であらためて使用機械の説明や安全作業について、特別教育などの指導もせずに即使用している現場が多いようです。簡単に操作できるといっても現場の状況と作業内容、機械の能力をよく見極め、適切な安全指導を行わねばなりません。

《指導項目》（最近の事故事例から）

- (1) 動きが上昇・走行だけであり、操作も簡単なので甘くみがち。危険意識を高めること。
- (2) 安全操作、危険行為、事故事例などの知識が乏しいので、KYを十分に行う。
- (3) 荷揚げ、吊り上げ用の機械ではないことを徹底し、便利使いさせない。
- (4) 大半が元請けの調達なので、日常の点検や充電を忘れがち。キーの管理まで徹底を。
- (5) 床の形状（特にスロープなど）や天井高さ、出入口の高さを理解させておく。
- (6) 安全装置の内容、緊急停止する場合はどんな時かなど、機械の特性を理解させておく。



ガンさんのフシポイントレッスン

～蒸発性不安全行為とは！？～

意味

建設業界では、聞き慣れない言葉ですが、これはアメリカ最大の化学会社のデュポン社の安全活動の中で、監督者の心得を説いたテキストに登場する表現です。

今回のマンガの中で、安全くん達が行った一瞬の行為は、何が危険か、どうすれば良いのかを実は理解しているからとれる瞬間的な行為なのですが、「監督者は、一瞬にして消えるこのような不安全行為を見逃さずに、指摘し是正していくことが重要な仕事である」ということを示唆した言葉なのです。

事例

事故が発生する時は、単独作業では原因が特定しにくく、また目撃者がいてもなぜそのような危険行為をしていたのか理解できないような行為が重なっているケースがほとんどです。作業員が他人に見られるとまずいと思っている、こうした危険行為を蒸発させず早期に発見していれば、「予想外の事故」も未然に防ぐことができたかもしれません。

対策

危険行為であることを知らずにいる作業員への指導よりも、知っているのに隠れてやっている作業員への指導のほうが骨が折れます。そのためにも、まずその現場を発見することが重要です。監督区域に入った直後の10～30秒が勝負です。ガンさんのように、見て見ぬふりをしていたとすれば、作業員から黙認、認められたと受けとめられます。これでは監督者としては失格。すぐに指摘し、改善させてください。

〈出典：「ゼロ災への120話

安全エピソードハンドブック」

田辺 肇著 PHP研究所発行 より〉





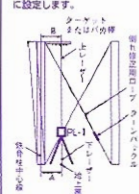
貸RENT します NISHIOの レーザー鉛直機 PL-1



他にも、タンクの歪み測定やダム の歪み測定にもご使用 いただけます。

使用例

■鉄骨柱の鉛直設定
A=Bとなるように鋼線修正用 ロープを調整し、鉄骨柱を鉛直 に設定します。




解説コーナー 現場の火災防止について

最近も、ビルの改装工事中にガスの爆発事故がありましたが、この寒い時期には風を通さず、乾燥した状態の現場が多くなり、火災や爆発事故が発生しやすい状況となります。特に、建物の増改築、修繕、模様替えなど、設備・内装工事の際に溶接・溶断の火花が原因となるケースが非常に多く、ついで放火、たばこの不始末があげられます。

〈問題点〉

- 現場では木片や紙、段ボール、発泡スチロール、ボロ布など可燃性の高い廃材やガスボンベ、塗装用の危険物そして仮設電気設備などが乱雑に置かれている。
- 同時にいくつかの専門業者の作業員が入っており、改築などの場合はスペースの問題、工期の問題などもあって、火気の取り扱い方法の徹底は非常に難しくなる。

〈対策〉

- (1) 作業員に消火、避難、通報の要領を定め、訓練を実行。
- (2) 現場内に消火器、消火バケツを十分に配備。
- (3) 関係者以外の出入りを禁止し、厳重にチェック。
- (4) 火気を使用する際には事前に内容を連絡させ、他職へも通知。
- (5) 作業終了後、火気使用場所、喫煙場所の定期巡回点検を実施。
- (6) 作業終了後、厳重に出入口を閉鎖し、外部からの侵入を防止。



